

育苗箱を利用した根域制限による極小輪切り花葉ぼたん栽培技術

1 背景・目的

近年、フラワーアレンジメント用極小輪葉ぼたん^{*}の需要が増えており、生産者からは栽培技術の確立が求められている(図 1)。そこで、フリージアの育苗箱 2 段重ね栽培を参考とし、根域制限による極小輪の切り花葉ぼたん栽培技術について検討する。

※ 極小輪葉ぼたんの出荷基準:調製後の切り花長 25~40 cm、株径 10 cm 以内



図 1 (左) 切り花葉ぼたん (右) 極小輪切り花葉ぼたん

2 技術のポイント

- (1) 育苗箱を 2 段重ねした根域制限栽培により、「初紅」「晴姿」ともに、切り花長、株径で出荷基準を満たすことができる(図 2、3)。
- (2) 培土に与作 N-150 を用い、追肥で育苗箱 1 箱あたり総窒素量 2.4~3.6g を 3 回に分けて施用することで、切り花長 25 cm 以上を確保することができる(図 4)。

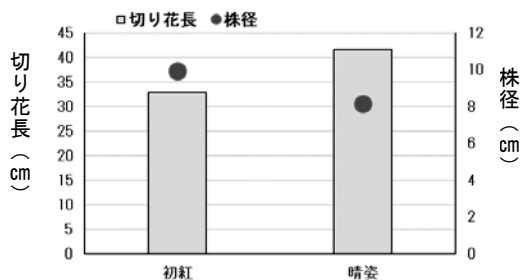


図 2 根域制限栽培により「初紅」、「晴姿」の切り花品質に及ぼす影響

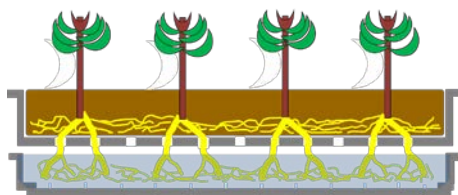


図 3 育苗箱 2 段重ね栽培
培土: 与作 N-150、栽植密度: 32 本/箱

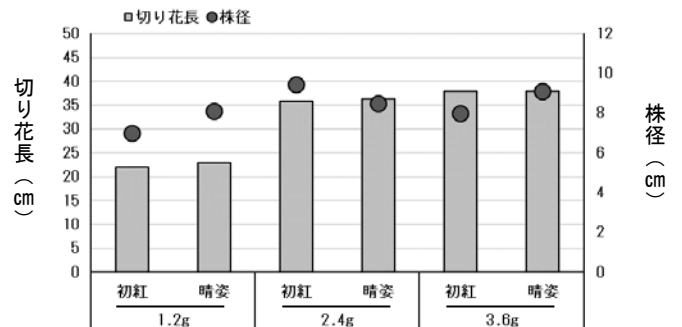


図 4 追肥量の違いが「初紅」、「晴姿」の切り花品質に及ぼす影響

3 成果の活用と残された問題点

- (1) 育苗箱 2 段重ね栽培では、初期の水分過多により立ち枯れを起こす場合もあるため、灌水管理の検討が必要である。
- (2) 「初紅」は節間が広くなり葉詰まりが悪くなるため、栽植密度や新たな品種の検討が必要である。

問合先: 園芸栽培グループ TEL 076-257-6911

担当者: 西野 舞